

# 薬剤経済学セミナー

## 参加者の声 ～参加者アンケートより～

### ■ 薬剤経済評価の基礎

- 費用対効果評価データの作成や結果を理解する上での重要な考え方や必要な情報について分かりやすくご教示いただき大変参考になりました。
- RWD 研究の落とし穴を知ることができたこと。また、「HEOR の部署のあるべき姿は御用聞き部門であること」とのメッセージが非常に心に響き、これから自身がすべきことが明確になったように思います。

### ■ 【演習】 QoL 値の測定方法

- 演習をすることで QOL 測定方法の違いによる結果への影響を理解することが出来ました。
- 各スコア算出法の原理や長所・短所について理解できた。
- QOL 値を実際に計算してみることで見えてくるものがあり、具体的で非常に参考になりました。

### ■ QoL の測定

- NICE の ICER 閾値は適当に決めたという事実は非常に驚きでした。各 QOL 測定法の特徴の違いや、なぜスコアが異なるのかがようやく理解できました。
- タリフの開発手順が興味深かった。マイナスの値があり得ることや閾値や 1QALY に対する考え方が参考になった。

### ■ モデルを使った経済評価

- モデル構築はデータが限られた中で先のことを色々と想定しなければならないことと、感度分析の考え方を理解できた。
- 生産性損失の検討がとても難しいことを理解しました。

### ■ 費用対効果評価の政策応用(国内)

- 費用対効果評価制度のしくみだけでなく、企業分析の例を解説頂いたことで、実際にどのような分析が行われているのかがよくわかりました。
- 導入の経緯、現状、今後の課題について幅広い知識が得られた。

### ■ コストの算出方法と課題

- NDB が絶対ではなく、何をどう評価したいかを決めてそれに応じたデータを用意する必要性を理解できた。
- レセプトデータを入手するところが 2 合目というお話が興味深かったです。レセプトデータの性質をよく理解した上で解析しないと、誤った結論を導き出す恐れがあることがよくわかりました。

### ■ 費用対効果評価の政策応用(諸外国)

- フランスの事例は初めて勉強する機会であり、日本と対比をいただき理解が進む内容であった。
- コストの評価は医療経済の評価だけでなく、薬剤の意義等で評価されるということがよくわかりました。
- HTA といったこの分野で基本的な用語でも多義的に使われることがあると教えて頂きました。

### ■ 経済評価論文の読み方

- 特に認知症の事例や高額医薬品、希少疾病治療薬の事例を例にあげていただき、身近な商品であったため、理解しやすい内容であった。
- 注意すべきポイントを教えて頂いたことで読み方が今後変わってくるのがわかりました。